



切磋琢磨



御幸中学校
3年学年だより
令和5年7月18日(火)
第7号

7月10日に、産婦人科医の佐竹紳一郎先生をお迎えして、思春期講座が行われました。命の現場で先生が体験したことや、皆さんに考えてほしいことなど熱心にお話ししてくださいました。皆さんの感想を紹介します。

「本当に大切なもの」～3年思春期講座～

自分が生まれるまで、母親、父親が産む決意をしたこと、子宮の中から無事出してくれたこと、いろいろなことが重なって生まれていることを知った。自分は末っ子で、二人いるが、二人の子を産んでさらに自分のことも産んでくれたとなると、親に改めて「自分を産んでくれてありがとう」と感謝したいなと思った。この世には妊娠を断念する人もいるので、自分が生まれこれてよかったし、自分の命を大切にしていきたいなと思った。

今日の話を聞いて、妊娠したときには覚悟や責任感が必要なんだと思った。妊娠したときに、自分は嬉しくても相手が焦っていたり、子供が産めるとしても障害のある子だとしたら育てる覚悟はあるのかなど、いろいろ考えさせられた。自分は妊娠するなら責任感がないとダメだと思ったし、障害のある子供でももっと暮らしやすい世の中になってほしいと思った。でも、いろんな考え方があるので難しいとも思った。



女性に起こる生理や中絶など聞いたことはあるけど、関係はあんまりないから大丈夫やろという気持ちでした。しかし、この講演を聞いて、男にはない苦しみや痛みがあることや、男にもできることがあることを知り、良かったと思いました。これから先にも大切にしたいと思う人が出てくると思うので、佐竹さんのように、相手のことを知り自分にできることを全力でやりたいと思います。

講演を聞き、自分が今こうやって健康に生きているのはあたりまえのことではないと改めて感じました。本当に命の誕生は奇跡そのものだと思います。

自分は、生理というものが本当にうっとうしくて、早く止まればいいのにと感じていましたが、今日、「生理」というものが、どれだけ大切なのか気づくことができました。だからこそ、これからの社会に、女性の生理をもっと支えてくれるサポートがあるといいなと思います。

今日、佐竹先生の講演を聞いて、知らなかったことを知ることができたし、1つの視点で物事を見るのではなく、いろいろな視点で見た方がいいと改めて思いました。

「命はつながっている」という言葉や、「一人一人個性豊かな人間がいる」という言葉がとても印象に残りました。言われてみればそうだなと思ったし、お互いがそのことを認め合えると良い世の中になっていくのではないかと思います。私たちの今後に関わるようなお話ばかりだったので、知らなかったところや、改めて気づくことができたことを、頭や心に置きながら、日々の生活を大切にできる人になりたいと思いました。お互い平等に、～だからと決めつけるのではなく、相手のことを気遣い、認め合いながら接していきたいです。



子孫を残すということは、生き物としてすごく自然なことだけど、とても大変で大切なことだと実感できました。男には分からないところで女性がすごく大変な思いをされていて、それを助ける佐竹さんはすごいなと思いました。僕もこれからは女性の気持ちを理解し、助けるということを頭に入れて生活していきます。

自分は中学生、高校生で命を授かることが本当にあるんだとわかり、驚きました。自分はドラマでしか見たことがなかったからです。命を授かることがどれだけ重要なことか、改めて気づくことができました。一つの命が空気を吸うまでには、いろいろなことが決断されてきていることも知ることができました。自分が今こうして空気を健康に吸えているのはあたりまえじゃないんだと思いました。今日聞いたことを忘れずにこれからの人生に生かしていきたいです。

私が特に印象に残った言葉は「命のリレー」です。「親との出会い」「パートナーとの出会い」そして「自分の子との出会い」は誰もが経験することであり、昔から現在までずっと行ってきたからこそ、「命のリレー」で自分が生きていることが分かりました。

また、障害を持つ子を産む可能性があるというお話も心に残りました。今日聞いたことを生かして将来に役立てたいです。

